平塚空襲から 80 年

～「きく」こと、そして語り続けるために～

目の前が急にものすごく明るくなって途端に体中がものすごい熱さになったんです。…父はとっさに火の中に飛び込み、火だるまの私を抱きかかえて、防火水槽に放り込んで、私に着いた火を消してくれました。…父は姉を背負い、弟は兄がおんぶし、母は妊娠８か月ですから私をおんぶすることなんてできません。私は「自分で歩く」と言ってみんなの後をついて行きました。（炎の証言 23 号「よみがえった 12 歳の生命」より）

現在の平塚駅北口バスロータリー付近

1945 年 7 月 16 日 午後 11 時 32 分「平塚空襲」が始まりました。それから約 1 時間 40 分の間に、40 万発もの焼夷弾が平塚の町に落とされました。たくさんの人が亡くなりました。そして平塚の町が焼け野原になりました。

平塚空襲から 80 年が経ちました。今の平塚の町に「空襲の痕」は見えません。平塚空襲の体験者は言います。

「あの時のことを知ってください。戦争を起こさないために」

体験者の話を聞き、「平塚空襲」のことをみんなで考えていきませんか？

日時　2025 年８月 17 日(日)13 時 30 分～ 15 時 30 分(開場 13 時)

主な内容 ○体験者の話（江藤 巖氏 平塚の空襲と戦災を記録する会会長）○参加者同士の意見交換

会　場 平塚市博物館講堂　　**定　員** 60 名（先着順）

問い合わせ 平塚市博物館（平塚市浅間町 12－41　TEL 0463-33-5111）

主催　平塚の空襲と戦災を記録する会　平塚市博物館